

# Windows 11 同期システム の全体像

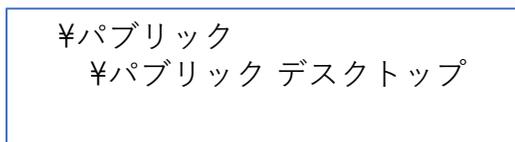
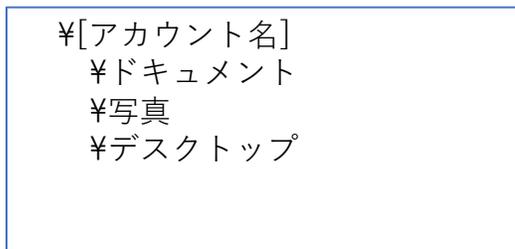
Windows 11 における  
「ファイル」と「ブラウザ設定」の  
同期構造  
(2026/3/8 作成)

# デスクトップ表示とOneDriveの関係

- 「重要なフォルダーの保護」機能により、ドキュメント・写真・デスクトップが自動同期（デフォルト設定）される。
- デスクトップ画面には、デスクトップ（個人専用の表示項目（作成したファイル・フォルダ等））と、パブリックデスクトップ（全ユーザー共通の表示項目（アプリのショートカット等））が表示される。なお、パブリックデスクトップは、同期されない。
- 同期されているフォルダ上のOfficeファイルの編集には、アプリ自体のサインイン（Microsoftアカウント）も必要です。

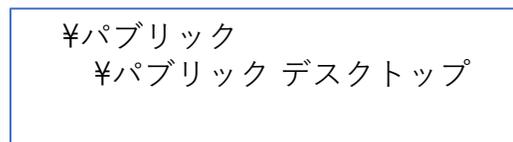
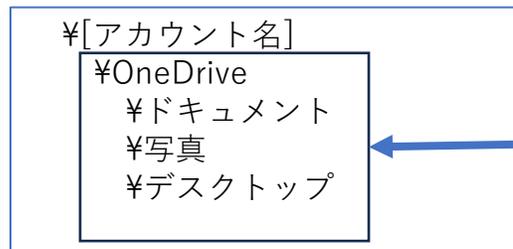
## OneDrive無効時

ローカルアカウント  
C:¥ユーザー



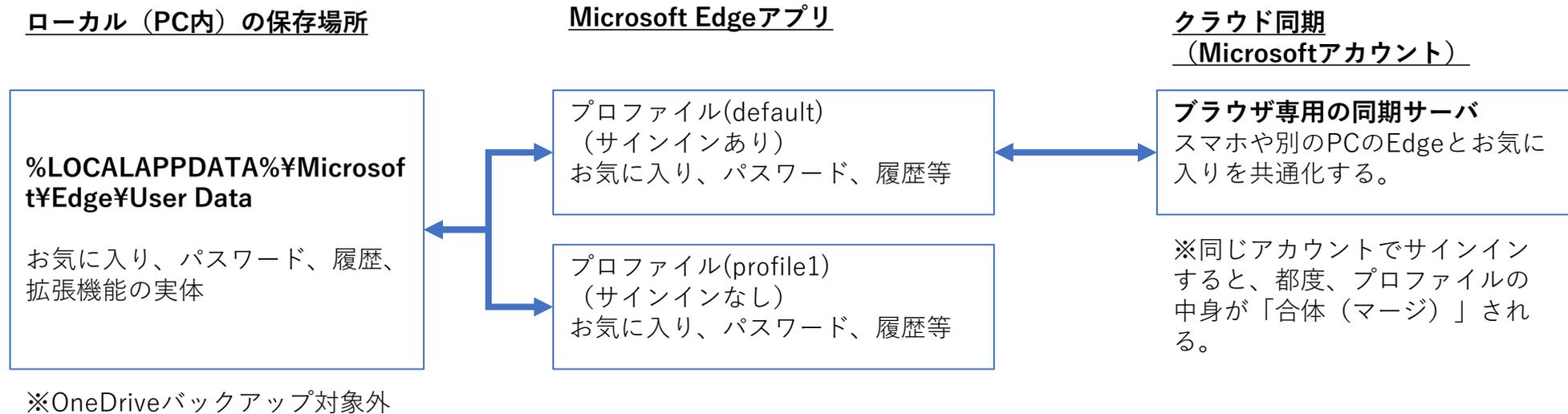
## OneDrive有効時

Microsoftアカウント  
C:¥ユーザー



クラウド(OneDrive)と同期する  
(OneDrive同期ONの場合、実  
体はOneDriveフォルダへ移動)

# Edgeのプロファイルの同期の仕組み



# デスクトップ・ファイルとブラウザ設定の同期の違い

要素	① デスクトップ・ファイル (OneDrive)	② ブラウザ設定 (Edgeプロファイル)
実体の場所	C:\Users\[名]\OneDrive\デスクトップ	%LOCALAPPDATA%\Microsoft\Edge\User Data
同期の主役	<b>OneDriveアプリ</b> (バックグラウンド動作)	<b>Edgeアプリ自身</b>
同期ルート	OneDriveクラウドストレージへ	Microsoftアカウント同期サーバーへ
管理単位	<b>Windowsログインユーザーごと</b>	<b>Edge内のプロファイルごと</b>
注意点	Officeアプリ自体のサインインも必要	同じアカウントでサインインすると <b>統合</b> される

# デスクトップ等のファイルとEdgeのお気に入り等 に入り等の同期の違い

比較項目	デスクトップ等のファイル	Edgeのお気に入り等
同期を担うもの	OneDriveアプリ	Edgeブラウザ自身
クラウドの場所	OneDriveストレージ	MSアカウントの同期サーバー
オフライン時	ローカルに実体がある	ローカルに実体がある
注意すべき罫	アプリのサインイン漏れがあると保存されない	<b>アカウント統合（マージ）</b> ローカルアカウントでの閲覧状態でMicrosoftアカウントにサインインすると内容がマージされる。

# ワンポイント・アドバイス（備忘録）

- 「OSへのサインイン」と「各アプリ（Word/Edge）へのサインイン」は連動するが、同期の仕組み自体は独立している。
- **【ファイル】** デスクトップの実体は「パブリック」と「個人（OneDrive）」の合算。
- **【保存】** OneDrive上のファイルを編集する際は、Word等のアプリ右上にも自分の名前が出ているか確認する。
- **【Edge】** お気に入りを混ぜたくない場合は、サインインする前に「新しいプロファイル」を作成して切り分ける。